

つながる◎孤立から、つながりへ◎

【エピソード】

陽子さんは35歳の女性。D市のアパートに、夫の実さんと4歳の娘、はるみちゃんと暮らしています。実さんは町工場の技術者ですが、不景気で最近は収入が減っています。陽子さんはある日、同じアパートに住む森田夫妻が、「ゴミ出しのルールを守らない人がいる」と話しているのを聞きました。なんでも、昼間にゴミを出す人がおり、その人は日本語がよくわからないようだ、というのです。陽子さんは、「あ、ひょっとして、お隣となりかな」と思いました。隣の人とは話したことはありませんが、はるみちゃんと同じぐらいの年の女の子に、その母親らしい人が外国語で話しかけているのを、聞いたことがあるからです。陽子さんは、森田さんの話しぶりが何となく気になり、話に加わりました。

陽子 「それって、うちの隣の202号室の人のこと？」

森田(妻) 「そうそう。外国の人や。注意してもわからへんみたいで、困るわ。いっぺん大学生の姪っ子に頼んで、英語で言うてもろてんけど、通じんかったし。」

森田(夫) 「話にならんやろ。それにしても、あの一家、何しに日本に来てんのや。」

森田(妻) 「お金稼かせぎに決まってるやん。あそこ、ダンナは町工場で働いてるみたいやで。」

陽子 「工場って、どこのやろ。」

森田(妻) 「知らんけど。この町、工場が多いからね。陽子さんとこのご主人、〇〇工場やろ。外国の人、増えてるとちゃう？」

陽子 「そういう話、聞いたことあるわ。今、若い人がなかなか工場に就職したがらへんからね。そやから、助かってるって聞いたけど。」

森田(夫) 「今はいいかもしれんけど、どんどん増えたら怖いわ。わしらの仕事なくなるかもしれんやん。お宅のダンナかって、うかうかしてられへんで。」

なんだか話が妙な方向に行くなあ、と思った陽子さんは、とりあえずその場を立ち去りました。家に帰ってから、隣の一家のことが急に気になりはじめました。陽子さんは、学生時代に海外を一人旅したことがあります。言葉が通じない不便さや不安さを思い出し、そんな中で仕事したり、子どもを育てるのはどんなに大変なことかと思ったのです。また、今のままでは、アパートの人達からどんどん悪く思われそうなのも気がかりです。隣のお母さんに話しかけてみたい、でも言葉が通じないから無理かな、と迷っています。



対話の
ために

- あなたが陽子さんの立場だったとしたら、隣の人に対し何か行動を起こせそうですか。
- このあと、陽子さん（一家）と隣人一家、アパートの住民との関係がどうなっていくか、予想してみましょう。

陽子さんは、まず夫の実さんに話しました。実さんの職場に外国の人がいると聞いたことがあったので、どうやってコミュニケーションをとっているのかと思ったからです。実さんは答えました。「うちの工場の人は、カタコトの日本語は話せる。でも、細かい話をせなあかん時とか、事故の時とか、『通訳』がいる時は、民間の外国人支援の団体に連絡して、通訳を派遣してもらってる」。陽子さんは、その団体に興味を持ちました。実さんはついでに、こうも言いました。「隣のうちの人が話してるの、たぶんスペイン語や。工場にそういう人がいてるから、内容はわからんけど、なんとなくわかるねん」。

陽子さんは、その団体の連絡先を聞いて、思い切って電話してみました。隣人のことを話すと、そのスタッフは、ていねいに話を聞いてくれ、「ゴミ出し以外にも問題があるようですね。一度、通訳を派遣します」と約束してくれました。

週末に、通訳が陽子さんの隣人を訪ねてくることになり、陽子さんも同席させてもらいました。隣人は、マリア・比嘉・ロドリゲスさん（日系ボリビア人）、ホセ・ロドリゲスさん（ボリビア人）夫妻と、娘のアナちゃんでした。ホセさんは仕事で不在。アナちゃんを抱っこしたマリアさんだけが家にいました。マリアさんは、次のようなことを話しました。

「私は、沖縄からボリビアに移住した両親のもとで生まれ育った日系人です。ボリビア人の夫と結婚しましたが、ボリビアは不況続き。結婚直後に夫は失業してしまいました。ちょうどその頃、日本政府が日系人を受け入れているのを知り、生活の基盤を築くために、日本に来ました。翌年アナが生まれましたが、生活は苦しかった。日本語も不自由だから、夫が仕事を見つけるのがすごく難しかったです。なんとか見つけても、同じ仕事をしている日本人より給料がずっと低かった。土曜日曜も、出勤させられました。さからったら、失業です。私たちには、ボリビア出身の知人はいるけど、日本人の友達は一人もいません。生活や子育てで困ったことがあっても、どこで誰に聞けばいいかわかりません。」

ここまで通訳してもらった陽子さんは、隣人一家が日本で、これまで全く孤立して生活してきたことに心を痛めました。そして、とりあえず「ゴミ出し」のルールについて、通訳の人に説明してもらいました。マリアさんは「道ばたにゴミが捨ててあるのを見るから、そこに自分も置いただけ。そんな（曜日と時間帯が決まっているという）決まりがあると知らなかった」と言って驚きました。陽子さんは、これからは、ゴミの日の前の晩に、マリアさんに一声かけるようにすると約束しました。

通訳の人は、自分の所属する団体の相談電話(母語で相談を受けられる)や、D市国際交流協会の「外国人相談窓口」、日本語教室についてスペイン語で書いたものをマリアさんに渡して、説明しました。マリアさんの顔に初めて明るい表情が浮かびました。

翌日から、陽子さんとマリアさんの家族ぐるみのつき合いが始まりました。アナちゃんは陽子さんの娘、はるみちゃんと仲良くなり、近所の子とも遊びはじめました。陽子さんとマリアさんは、料理を教えあうなどして、ずいぶんうちとけました。マリアさんはまた、近所の公民館の日本語教室にホセさんと通いはじめています。その間は陽子さんがアナちゃんを預かるのです。今、マリアさんは、陽子さんの行動をきっかけに、日本の社会のあちこちにつながりをつくることができ、以前とはずいぶん違う生活を送っています。陽子さんもまた、マリアさんとのつながりによって、自分の世界が広がっていくを感じています。



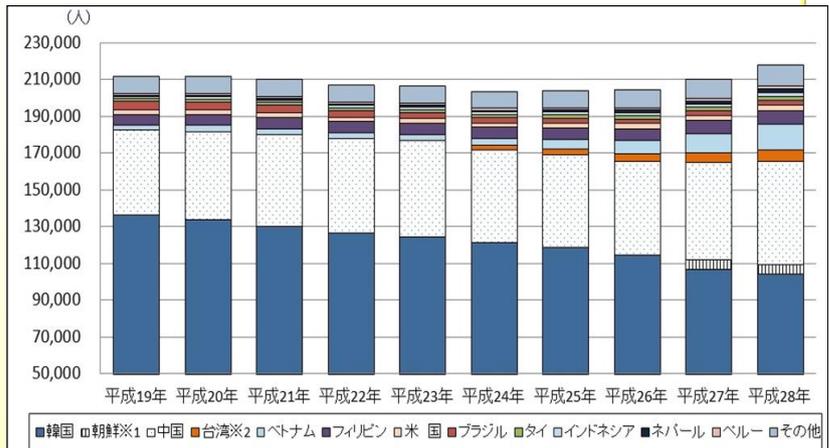
【ミニ解説】

◎なぜ「つながり」を持ちにくく、孤立する外国系住民が多いのか。

一つには、外国系住民への無理解と偏見が挙げられるでしょう。1990年入管難民認定法の改定（日系人の出入国の緩和）、1993年の「技能実習制度に係る出入国管理上の取扱いに関する指針」制定以来、日本に新しく来る外国系住民（日本国籍をもつが外国にルーツを持つ人を含む）が激増しました。この背景には、グローバル化（もの、お金の地球規模での移動が激化し、経済的に相互依存を深めている現象）や、発展途上国と日本など工業先進国との著しい経済格差、日本社会の労働現場でのニーズ、日本政府の政策の変更などがあります。

しかし、外国人への理解や地域社会での交流はまだ十分とは言えません。「お金のために来ている」といった一方的な見方をされ、「外国人が増えると治安が悪化する」といった事実と反する偏見も根強いのです。来日する外国人はどんどん多国籍化していますが、外国人を差別的な目で見る人がまだまだ多いのではないのでしょうか。

孤立の原因としてもう一つ、「言葉の壁」も深刻です。日本語がわからない人が日本社会で生活するのは、想像以上に大変なことです。言葉がわからなければ情報を得られず、何においても人権を侵害されやすいばかりか、日本の市民との接点を持ちにくいのです。



大阪府の主な国籍・地域（出身地）別 在留外国人数の推移

（大阪府府民文化部都市魅力創造局国際課作成）



【キーワード】

■識字学級、日本語読み書き教室など

世界人権宣言や国際人権規約の中では、教育を受ける権利は何人にも奪われることのない権利とされていますが、識字問題は、差別や貧困等の結果、教育を受ける権利を奪われてきたという基本的人権に深く関わる問題です。識字学級では、読み書きの学習を通じて、社会を知り、人生を考え、自分を活かす営みが続けられています。

平成 29（2017）年に、大阪府教育委員会は、識字・日本語教室等の学級調査を行いました。その結果、大阪府内（大阪市・堺市を含む）で 190 以上の学級や教室が開設され、約 4,900 人以上の人

々が学習していることがわかりました。さらに平成 28 年（2016）年から実施した文化庁事業「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」による教室訪問で、技能実習に関わる在留者が増加するとともに、定住者の国籍やニーズなどが多様化している実態が明らかになりつつあります。

平成28年末現在 外国人登録数上位都道府県の国籍(出身地)別の割合(%)										
	総数	中国	韓国	ネパール	フィリピン	タイ	ベトナム	米国	ブラジル	ペルー
総数	2,382,822	29.1	19.0	2.8	10.2	2.0	8.4	2.3	7.6	2.0
東京都	500,874	38.0	18.1	4.6	6.3	1.6	5.7	3.6	0.7	0.4
愛知県	224,424	20.6	13.8	2.5	14.9	1.2	8.0	1.2	22.8	3.4
大阪府	217,656	25.8	47.8	0.9	3.4	1.0	6.6	1.3	1.1	0.5
神奈川県	191,741	32.6	14.4	2.4	10.7	2.2	7.2	2.7	4.4	3.4
埼玉県	152,486	39.6	10.3	2.6	12.3	1.9	10.0	1.2	4.8	2.3
千葉県	133,071	34.8	11.6	3.5	13.3	4.1	9.0	1.6	2.6	2.1
兵庫県	101,562	22.4	40.6	1.3	4.1	0.8	11.4	2.2	2.3	0.8
静岡県	79,836	14.4	6.1	1.4	18.4	1.8	6.3	1.0	33.2	5.8
福岡県	64,998	30.2	23.9	7.8	7.2	1.1	12.4	2.2	0.5	0.3
京都府	55,111	23.8	45.3	0.9	3.9	1.0	4.1	2.5	0.7	0.3

（法務省入国管理局作成資料より作成）

■ 外国人相談窓口

公益財団法人 大阪府国際交流財団（OFIX）では、大阪府在住の外国人の方々が、外国語による情報提供や相談を受けることができるよう、相談窓口を設置しています。

対応言語	英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語、日本語	
対応日時	毎週 月～金曜日（祝日、12/29～1/3は除く）9:00～17:30（休憩12:15～13:00）	
場所	大阪市中央区本町橋2-5 マイドームおおさか 5階 （公財）大阪府国際交流財団	
相談専用電話	06-6941-2297	
FAX	06-6966-2401 ※日本語、英語のみ	
メール	jouhou-c@ofix.or.jp ※日本語、英語のみ	



1 小学4年生のAさんのお父さんは日本人、お母さんはフィリピン人です。Aさんは色黒で、「日本人らしくない」のを気にしています。友達や近所の人から「ハーフ」と呼ばれるのもイヤでした。参観日に母親が来るのを恥ずかしいとも思っていました。

ある日Aさんは、お母さんの通う教会で、タイ人の父親と日本人の母親をもつ女の子と仲良くなりました。彼女はAさんに言いました。「わたしらは得や。二つの文化を持つてるから。ハーフ（半分）やなくて、ダブル（二倍）やで」。Aさんは驚きました。彼女とつながったおかげで、自分が人と違うことを、プラスに思えるようになりました。

2 Bさんは10年前、市の職員になって、識字学級を担当しました。現在は別の部署に移っていますが、識字学級の学級生と共に学習した経験が、今日の仕事や活動にも大きな影響を及ぼしていると感じています。現在、ボランティアとして外国人のための日本語教室に関わっていますが、学習者の抱えている課題について、ワークショップを用いて解決策につながるセーフティネットづくりをめざしています。それは、識字学級で読み書きを学習したり、その学習を支援する雰囲気の中で、「人とつながる力」の大切さを実感したからです。

